

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	第3学年及び第4学年 A 表現 (2)ア (3)イ (4)イ B 鑑賞 (1)ウ
題 材 名	いい音えらんで(全9時間) 【教材名】 表現教材:「あの雲のように」 「おかしなすきな まほう使い」 鑑賞教材:「バディネリ」「オーボエきょうそう曲」 「クラリネット ポルカ」
題 材 目 標	音の特徴や音色の違いを感じ取り、想像豊かに聴いたり、イメージに合った音を探したり、表現の仕方を工夫したりすることができる。
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫(教材選択、教材配列、教材の時間配分等) ・イメージに合った音を探したり、表現の仕方を工夫したりすることができるよう、「あの雲のように」では、主旋律と副次的な旋律を音色の違った楽器で演奏したり、「音のとくちょうをしらべよう」では、楽器の音色が同じような音の響き合いや、音色が異なる音の響き合いなどを実際に音で体験をして、そのおもしろさを感じ取ることのできる活動を位置付ける。 単位時間における工夫(音楽活動の基礎的な能力を培う指導・援助等) ・場面に合う音の出し方や、組合せ方が工夫できるように一人一人が楽器を選んだり、音づくりをしたりする時間を十分に確保する。 ・イメージに合う音の組合せができるように、いろいろな楽器にふれるとともに、その楽器の音色の特徴の違いに気付けるようにする。
参 考 資 料	

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	・		・	
器楽		・		
創作				
鑑賞	・	・		
内容のごまとのま評り価規準	<p>【器楽】 進んで器楽表現にかかわり、器楽活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【創作】 進んで音楽づくりにかかわり、音楽をつかって表現する活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p>	<p>【歌唱】 斉唱や簡単な合唱などによる歌唱表現及び歌声のよさや美しさを感じ取るとともに、歌詞の内容にふさわしい表現を工夫し、拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化などを感じ取り、それらを生かした歌唱表現の仕方を工夫したり、身体表現をしたりしている。</p> <p>【創作】 様々なリズムや旋律及び音の組合せのおもしろさやいろいろな声や音の響きの特徴を感じ取るとともに、音楽表現のイメージを広げ、それらを生かした音楽づくりの仕方を工夫している。</p>	<p>【器楽】 範唱や範奏を聴いたり、楽譜を見たりして楽器を演奏するとともに、八長調の旋律を視奏している。また、音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏している。</p> <p>【創作】 音の組み合わせを工夫し、簡単なリズムや旋律をつかって表現するとともに、即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きやその組合せを楽しむなど、工夫して音楽をつくっている。</p>	<p>【鑑賞】 主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素、楽器の音色及び人の声の特徴、それらの音や声の組合せなどに気を付けて聴くとともに、曲想の変化を感じ取って聴く。</p>
題材の評価規準	<p>旋律楽器や様々な打楽器に興味・関心をもち、自分の思いやイメージをもとに、音を選んで表現する活動に進んで取り組んでいる。音の特徴に関心をもち、進んで演奏の仕方を工夫しようとしている。</p>	<p>歌詞の表す情景や気持ちを想像して歌ったり、自分の表現したいことについての思いやイメージを広げて、音楽づくりの仕方を工夫している。</p>	<p>旋律楽器や打楽器の演奏の仕方を身に付け、音色や美しいその響きを生かして演奏し、イメージに合う音づくりをしている。</p>	<p>個々の楽器あるいは同じ仲間の楽器の音色の特徴を感じ取って聴いている。</p>

単位時間における具体の評価規準	ナレーションや歌詞から、様子を思い浮かべながら聴いたり、歌ったりしている。 (歌唱)	レガート奏の感じをつかんでフレーズに合う歌い方をしたり、演奏の工夫を工夫したりしている。 (歌唱)	2つの旋律の重なりや響き合いを感じながら、演奏している。 (器楽)	楽器の音色の違いを感じ取り、楽器の特徴をつかんでいる。 (鑑賞)
	楽器の音色の特徴に関心をもち、進んで音を探したり、友達の工夫を聴いたりしている。 (創作)	魔法をかけ、成功した様子を音で表すために、楽器の持ち方や打ち方を工夫している。 (創作)	2つの旋律の響き合いや、音量のバランスを感じながら演奏している。 (器楽)	
	自分の思いやイメージをもち、積極的に音を選んで活動している。 (創作)		イメージに合う音を選んだり、音づくりをしたりして、表現している。 (創作)	
			全体の流れや場面の様子をつかみ表現している。 (器楽)	

3 指導と評価の計画 (全9時間)

時	教材	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	あの雲のよゆうに	3拍子の流れを感じながら、柔らかなのびとした声で歌ったり、声や旋律の重なりを感じ取ったりすることができる。	<p>範唱を聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3拍子のリズムにのって歌ったり、声や音の重なりを感じ取って二部合唱や二重奏をしたりしよう。</p> </div> <p>リズムや音程に気を付けて、フレーズごとに歌う。 のパートをリコーダーで演奏する。 4段目の のパートの音取りをする。</p>	イーレガート奏の感じをつかんでフレーズに合う歌い方をしたり、演奏の工夫を工夫したりしている。	観察 ・歌唱練習において1拍目を意識しながら、3拍子のリズムにのって楽しそうにのびのびと歌唱表現している様子から評	リズムや音程に気を付けて、フレーズごとに柔らかなのびのびとした声で歌うよう、フレーズの前でたっぷり呼吸し、歌うことを価値付ける。

			<p>4段目の ・ のパートを合 わせて二部合唱をする。 のパートをリコーダーで練 習する。 ・ のパートを重ねて、リ コーダーの二重奏をする。</p>	<p>ウー 2つの旋律 の重なりや響 き合いを感じ ながら、演奏 している。</p>	<p>観察 ・ 自分以外の 楽器の音色に 耳を傾けなが ら演奏してい るか評価す る。</p>	<p>のパートの 「ゆめ」の「ゆ」 の音と のパート の「いーって」の 「いー」の音を伸 ばして歌い、3度 の響きを感じ取れ るようにする。</p>
2	<p>楽器の 組み合わせを工夫 して、2 つの旋律 の響き合 いや音量 の balan スを考え ながら、 楽器を選 び演奏す ることが できる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>楽器の組み合わせを工夫し て二部合奏をしよう。</p> </div> <p>グループごとに楽器の組み合 わせを工夫する。 グループ練習をする。</p> <p>グループ発表をする。</p>	<p>ウー 2つの旋律 の響き合 いや、音量の bal ランスを感じ ながら演奏し ている。</p>	<p>観察 ・ 2つの旋律 の音色や音量 の balan スを考えなが ら楽器選 びをして いるか評価 する。 ・ 仲間の演奏 から工夫して いるところに 気付いている か評価する。</p>	<p>奏法によっても 音色が変わること に気付くように、 教師が範奏する。</p>	
3	<p>お か し の す き な ま ほう 使 い</p> <p>様子を 思い浮か べて、表 情豊かに 歌うこと ができる。</p>	<p>ナレーションや歌詞を朗読し、 どんな場面なのかを想像する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>様子を思い浮かべて歌おう。</p> </div> <p>範唱を聴き、リズムや音程に 気をつけながら歌う。 歌詞の内容を生かして、身体 表現を加えながら表情豊かに歌 う。</p>	<p>アー ナレシ ョンや歌 詞から、 様子を思 い浮かべ ながら聴 いたり、 歌ったり している。</p>	<p>観察 ・ 楽しい感じ をつかみ、歌 っているとき の身体表現の 様子から評価 する。</p>	<p>まほう使いの絵 や、かぼちゃやパ ンプキンパイなど の挿し絵を掲示 し、イメージをつ かませるようにす る。</p> <p>場面の様子を豊 かに想像している 児童の感想を交流 する。</p>	

4	<p>楽器の音を聴き比べ、音の高さや長さの特徴に気付くことができる。</p> <p>をしらべよう</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>いろいろな楽器の音を聴き比べ音の高さや長さの特徴を調べよう。</p> </div> <p>木琴で音を出して、音の高さと板の長さの関係を調べる。(鉄琴でも調べる。)</p> <p>木琴と鉄琴の音色と音の長さの違いを調べる。</p> <p>トライアングル、タンブリン、鈴、カステネットを選んで持ち、いろいろな音の出し方を工夫する。</p> <p>工夫した音を発表し合い、音色、音の高さ、長さなどを聴き比べる。</p>	<p>アー</p> <p>楽器の音色の特徴(音の高さや長さ)に関心を持ち、進んで音を探したり、友達の工夫を聴いたりしている。</p>	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで音を探しているか評価する。 ・仲間の工夫に気付いているか評価する。 	<p>木琴の板の長さ、音の高さの係に気付けるようにする。</p> <p>素材(木琴と鉄琴)の違いによって、伸びない音(短い音)と伸びる音(長い音)があることに気付けるようにする。</p> <p>1つの楽器でも奏法や打つ位置によって、いろいろな音が出せることに気付けるようにする。</p>
5	<p>自分のイメージ合う楽器を選び、音の出し方を工夫することができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「魔法をかける音」をつくらう</p> </div> <p>何にどんな魔法をかけるか考える。</p> <p>イメージに合う楽器を選び、音の出し方を工夫する。</p> <p>魔法をかける音を発表しあい、仲間の工夫を感じ取る。</p> <p>次時に向け、それぞれのグループがどの場面を担当するかを話し合う。</p>	<p>ウー</p> <p>イメージに合う音を選んだり、音づくりをしたりして、表現している。</p>	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何にどんな魔法をかけるのかを考えて、そのイメージに合う音選びをしているか評価する。 	<p>長い音、短い音、高い音、低い音など、イメージに合わせて音の出し方が工夫できるように、教師が範奏する。</p>
6	<p>グループで共通のイメージをもち、場面に合う楽器を選ぶことができる。</p> <p>ほ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループでイメージに合う魔法の音の楽器選びをしよう。</p> </div> <p>グループに分かれて、魔法の音のイメージを話し合う。</p> <p>イメージに合う楽器選びをする。</p> <p>1番のかぼちゃに魔法をかける音</p>	<p>アー</p> <p>魔法が成功した様子をイメージし、いろいろな音を試しながら、</p>	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4、5時で経験したことを参考にしながら、楽器選びをしているか 	<p>楽器の持ち方、打ち方を考えるよう助言するとともに「どんな様子をどのように表現したいのか」を聞き</p>

	う 使 い	<p>2番のいちごに魔法をかける音 どんなふうに表現したいか話し合う。</p> <p>どんなイメージを持ち、どんなふうに表現したいか、話し合ったことを表現する。</p> <p>楽器を組み合わせて作った魔法の音を発表し合い、仲間の工夫を感じ取る。</p>	楽器を選んでいる。	るか評価する。	ながら一緒に音色を確かめて楽器選びをする。	
7	本 時	<p>魔法をかけて成功した様子に合う音にするために、楽器の持ち方や打ち方を工夫して表現することができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>場面の様子が伝わってくるように、魔法をかけて成功した音を楽器の持ち方や打ち方、工夫して表現しよう。</p> </div> <p>グループで、魔法をかけて成功した様子場面のイメージを固め、共通の願いをもち、魔法の音づくりをする。</p> <p>楽器の持ち方や打ち方、強弱を考えて表現する練習をする。</p> <p>イメージを表現するために奏法で工夫したことを発表しあい、仲間の工夫を感じ取る。</p>	<p>イー</p> <p>魔法をかけ、成功した様子を音で表すために、楽器の持ち方や打ち方などを工夫している。</p>	<p>観察</p> <p>・グループを順に回り、表現の仕方や発言内容から評価する。</p>	<p>各グループの工夫したことを交流し、聴くことによって、より場面の様子に合うための奏法を考えるよう助言する。</p>
8		歌やいろいろな音を組み合わせ表情豊かな表現を工夫することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>朗読や歌に合わせてグループごとに発表しよう。</p> </div> <p>グループごとに発表する。</p> <p>グループで作った魔法の音をつなげてミニ音楽劇を楽しむ。</p>	<p>ウー</p> <p>全体の流れや場面の様子をつかみ表現している。</p>	<p>観察</p> <p>・グループを順に回り、表現の仕方や発言内容から評価する。</p> <p>学習カード</p> <p>・学習の感想から評価する</p>	<p>ビデオで撮影し、自分たちの表現や作り出した音を聴き、振り返ることができるようにする。</p>
9	ク ラ リ ネ ッ ト ポ ル カ	<p>木管楽器の音色の違いや、美しさを感じ取って聴くことができるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>木管楽器の音色の違うを知らう。</p> </div> <p>曲の旋律を聴き、どんな感じの曲か気付いたことを話し合う。</p> <p>楽器の名前や音色の特徴を知る。</p>	<p>エー</p> <p>曲の感じをつかみ楽器の特徴をつかんでいる。</p>	<p>観察</p> <p>・発言内容から評価する。</p> <p>学習カード</p> <p>・曲の感想から評価する。</p>	<p>写真や映像資料を提示する。</p>

4 単位時間の授業展開

(1) 本時のねらい

- ・魔法をかけ、成功した様子に合うような音にするために、楽器の持ち方や打ち方を工夫して表現することができる。

(2) 本時の位置

7 / 9時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む / 高 め る / 高 め る	<p>1 遊びましょう ・リズム遊び「おみせやさん」をする。</p> <p>2 合わせましょう ・リコーダーで既習曲を演奏する。</p> <p>3 歌いましょう ・「おかしなすきなまほう使い」を通して歌う。</p> <p>4 場面の様子を押さえ、課題をつかむ。</p>		<p>どこで魔法の音を入れるのかを押さえる。</p>
<p>場面の様子が伝わってくるように、魔法をかけて成功した音を楽器の持ち方や打ち方を工夫して表現しよう。</p>			
/ 高 め る	<p>5 グループに分かれる。 ・グループで、イメージを固め、共通の願いをもち、魔法の音づくりをする。</p> <p>・かぼちゃに魔法をかけて成功する様子 ・いちごに魔法をかけて成功する様子</p>	<p>イー 魔法をかけ、成功した様子を音で表すために、楽器の持ち方や打ち方などを工夫している。</p> <p>観察 ・グループを順に回り、器楽表現の仕方や発言の内容から評価する。</p>	<p>同じ楽器でも打つ位置や打ち方によっても音色が変わることを思い出させる。(?ボックスから教師がヒントを出す。)</p> <p>どんな感じで演奏したいのかを問いかけ、イメージの音に近づけるために、楽器の奏法を一緒に工夫する。</p>

まとめる	<p>6 ミニミニ発表会をしましょう ・グループの工夫したことや練習したことを発表する。</p> <p>7 交流から、本時の個人評価をし、次時のめあてをもつ。</p>	<p>各グループの工夫したことを発表し、交流する場を設けて、聴き合うことにより、より場面の様子に合う音づくりができるよう助言する。</p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<イー>

魔法をかけ、成功した様子を音で表すために、楽器の持ち方や打ち方などを工夫している。

(2) 評価の実際

— 評価の方法 —

グループ練習の観察

・グループを順に回り、器楽表現の仕方や発言の内容から評価する。

— 判断の仕方 —

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・魔法をかけ、成功した様子を音のイメージはもてているが、実際の音と結び付けて表現することができない児童をCと判断した。
- ・楽器の打ち方や持ち方を変えると、音色が変化することに気付いていない児童をCとする。

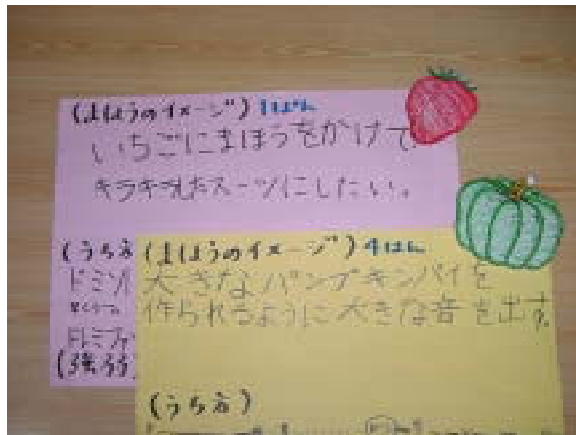
「十分満足できる状況」(A)と判断

- ・魔法をかけて成功した音を表現するために、楽器の持ち方や打ち方を工夫し、さらに強弱や速さ、音の重なりなどにも気付いて工夫している児童をAと判断した。

(3) 個に応じた指導(Cと判断される状況への働きかけ)

どんな感じで演奏したいのかを問いかけ、イメージの音に近づけるために、楽器の奏法をともに考え、指導する。

- ・魔法のイメージを、具体的にするために、詳しく聞いたり、どんな音で表したいかを聞いたり、どんな音で表したいか聞いたりする。



例えば「いちごに魔法をかけて、キラキラしたスーツに変身させたいから、シャリンシャリンという音を出したい。」など、イメージした音を擬声音で表現させるなどして、思いや願いを十分に語らせるようにする。

楽器の持ち方を変えることで、音色がどう変わるか教師が範奏し気付かせる。

- ・トライアングルの本体をさわらず、ひもの部分を持ち優しく打ったときの音色、激しく打ったときの音色、打つ場所を変えたときの音色の変化に気付かせる。
- ・鉄琴のばちの種類を変えるだけでも音色が変わることに気付かせる。